

令和 8 年度進行管理 **戦略点検シート**

◎基本政策 2 健康で安心な生活基盤の整備

主要課題	No. 16	在宅医療・介護連携の推進
------	--------	--------------

● 4年後の目指す姿・計画期間の方向性 ● 主要課題の戦略シートで設定している「4年後の目指す姿」と「計画期間の方向性」を転記しています。

主要課題の戦略シートで設定している「4年後の目指す姿」と「計画期間の方向性」を転記しています。

4年後の目指す姿	医療機関や介護サービス事業所等、在宅療養を支える多職種の連携体制が強化され、医療や介護を必要とする高齢者等が、在宅においても、訪問診療や訪問看護、介護サービス、生活支援等必要なサービスを受けている。
計画期間の方向性	○在宅療養を支える多職種による連携体制の強化 在宅療養支援について、福祉的なより広い視点から、顔の見える多職種の連携体制を構築し、在宅で医療や介護を必要とする区民に対し、切れ目なく適切にサービスを提供できる体制の充実を図ります。 ○地域医療の推進 区民が適切に医療・介護サービスを利用できるよう、かかりつけ医の周知・普及等、様々な情報提供に努めるとともに、看取りまでを見据えた在宅医療の推進等に向け、区の実情や国・都の動向を踏まえ、地域の医療・介護関係者の連携を強化していきます。

事業費（令和7年度） 上段：実績 下段：当初予算

1 どのような事業で何をしたか（実績） 戦略シートの課題の解決手段として紐づけた計画事業について、「何をしたか」「何がどうなったか」を記しています。

戦略シートの課題の解決手段として紐づけた計画事業について、「何をしたか」「何がどうなったか」を記しています。

事業番号	事業名称	所管課	事業の持つ役割						事業費(千円)		
69	地域医療連携事業	高齢福祉課・健康推進課	地域医療連携の適切な仕組みをつくるとともに、地域の医療関係者と介護サービス事業者等の効果的な連携を促進する。						17,718千円 (18,088千円)		
			主な取組実績		単位	R4(2022)	R5(2023)	R6(2024)	R7(2025)	R8(2026)	R9(2027)
			① 文京かかりつけマップの配布数		部	13,000	13,000	13,000	13,000		
			② かかりつけ医・在宅療養相談窓口への相談件数		件	171	103	64	66		
			③ 多職種ネットワークシステムのユーザー登録数		人	978	1,167	1,368	1,665		
	④ 地域医療連携推進協議会・検討部会		回	4	5	5	5				
R5(2023)	令和5年度地域医療連携推進協議会・検討部会開催数は、地域医療連携推進協議会1回、高齢者・障害者口腔保健医療検討部会1回、在宅医療検討部会3回で、計5回開催しています。										
R6(2024)	6年度地域医療連携推進協議会・検討部会開催数は、地域医療連携推進協議会1回、高齢者・障害者口腔保健医療検討部会1回、在宅医療検討部会3回の計5回開催しました。協議会・検討部会以外に、在宅医療検討部会の下に設置したワーキンググループを3回開催しています。										
R7(2025)	7年度地域医療連携推進協議会・検討部会開催数は、地域医療連携推進協議会1回、高齢者・障害者口腔保健医療検討部会1回、在宅医療検討部会3回、在宅医療検討部会の下に設置してワーキンググループを3回開催しています。										
70	在宅療養者等歯科訪問健診・予防相談指導事業	健康推進課	かかりつけ歯科医の定着を促進し、在宅療養者等の健康の保持・増進を図る。						10,710千円 (10,119千円)		
			主な取組実績		単位	R4(2022)	R5(2023)	R6(2024)	R7(2025)	R8(2026)	R9(2027)
			① 在宅療養者等歯科訪問健診		人	161	205	179	183		
	② 予防相談指導		人	107	131	100	128				
71	在宅療養支援窓口事業	高齢福祉課	地域の医療関係者と介護サービス事業者等の効果的な連携を促進する。						4,800千円 (4,800千円)		
			主な取組実績		単位	R4(2022)	R5(2023)	R6(2024)	R7(2025)	R8(2026)	R9(2027)
	① 高齢者あんしん相談センターの在宅療養支援相談件数		件	1,785	1,950	1,759	1,990				

●特記事項（実績の補足）

2 社会ではどのような動きがあったか
(社会環境等の変化)

人口の増減や、国や都の動きなど、主要課題の背景に関して「何があったか」「今後予想される」等の社会の変化を捉えています。

チェック	チェック項目
無	主要課題に関連する法改正があった（今後、法改正がある）
有	主要課題に影響を及ぼす変化等があった（今後、変化等の可能性がある）

団塊の世代が75歳以上となる2025年を迎え、医療や介護の両方を必要とする高齢者数が増加することが見込まれます。医療や介護が必要となった場合でも、住み慣れた自宅等で最後まで自分らしい暮らしを続けることができるよう、在宅生活を支える体制づくりの推進が必要となります。

3 成果や課題は何か（点検・分析）	1と2に基づき、計画期間の方向性ごとに「課題解決にどのような成果があったか」「成果が出ない要因は何か」「新たな課題が生じてないか」などを点検・分析します。
-------------------	---

○在宅療養を支える多職種による連携体制の強化

東京大学グローバルナースングリサーチセンターとの連携協定に基づき、「区民のケアコンピテンシーの向上」「くらしの保健室を拠点とした地域づくり」「区内医療・介護専門職等の支援」を目的として、共に学ぶケア講座（計6回,24名参加）、くらしの保健室（来訪人数496人）、医療・介護人材を対象としたリスキルプログラム（1回、17名参加）を実施し、看取りを見据えた在宅医療・介護連携の推進に努めました。共に学ぶケア講座については、定員15名のところ51名の応募があり、定員を30名に拡大し実施しました。

また、多職種連携の取組を推進するため、在宅医療検討部会の下に設置している、学識経験者、医療、介護、障害福祉、地域支援者等が参加するワーキンググループを3回実施しました。ワーキンググループでは、6年に議論した「2040年に向けた在宅医療・介護連携の共通の方向性」、「共通の方向性を踏まえた5年後の具体的目標」をさらに深掘りし、今後の施策の方向性について整理しました。

また、多職種ネットワークシステムのユーザー登録数についても、活用事例を用いた研修などを通じて医療介護関係者に周知を図ったこと等により着実に増加しているため、引き続き関係者向け周知啓発に努めます。

なお、8年度に「高齢者・介護保険事業計画」（9年度～11年度）の策定を予定しているため、区内在住の高齢者や区内介護サービス事業者を対象として「高齢者等実態調査」を実施し、日常生活の実態や介護予防・健康への取り組み、介護サービスを提供する上での課題等の把握に努めました。

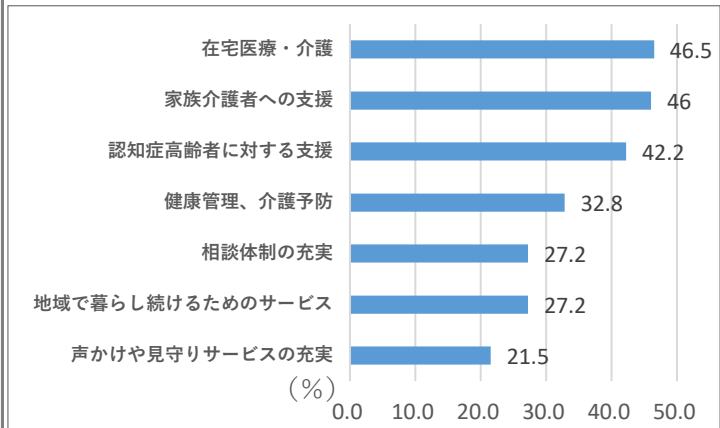
○地域医療の推進

地域医療連携推進協議会や各部会において、医療現場での取組みを支援するとともに、今後も区民に切れ目のない医療を確保するための検討を行っていきます。

「文京かかりつけマップ」の改訂作業を行い、地域の医療機関等の情報をアップデートし、配布することにより、区民等に対して区内の医療機関や薬局の情報が幅広く周知されています。

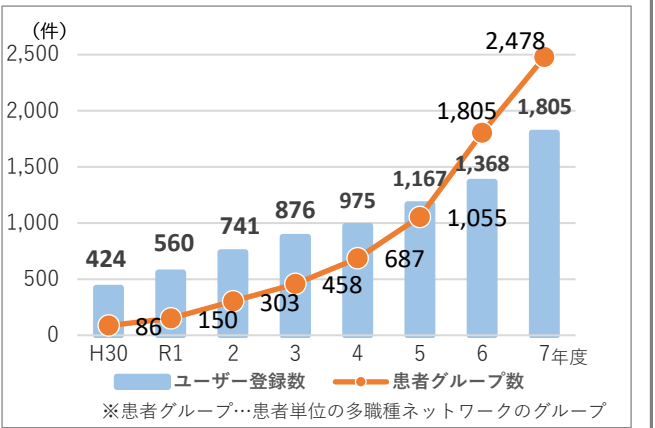
ほかに、「いつまでも住み慣れたまちで生活するために」をテーマとする「在宅医療・介護支援ガイドブック」を改訂することにより、様々な不安を抱えた区民が必要な時に必要なサービスを利用することができるよう、さらなる地域医療の推進に努めます。

●今後区に力を入れてほしいこと



資料:令和7年度高齢者等実態調査

●多職種ネットワークシステムの登録数と患者グループ数の推移



【SDGsの視点】	
	看取りまでを見据えた在宅医療・介護連携の体制構築に向けて、ICTの活用などにより多職種間の連携強化を図るとともにかかりつけマップの改訂を行い関係機関に配付し、誰もが安心して医療と福祉を受けられる環境整備に寄与しました。 また、在宅療養者等歯科訪問健診については前年並み、予防相談指導事業の利用件数については増加となりました。 さらに、地域医療連携推進協議会や各部会において、区民が地域で安心して受けられる医療体制を検討しました。
	東大グローバルナースングリサーチセンターと連携協定を締結し、看護職・介護職を中心に多職種連携を推進することができました。 また、在宅療養者等歯科訪問健診・予防相談指導事業の周知については、歯科医療機関に加え、訪問診療実施医療機関、在宅患者訪問薬剤管理指導を行っている薬局、高齢者あんしん相談センター、文京区社会福祉協議会の協力を得て実施できました。

4 今後どのように進めていくか（展開）	3を踏まえ、「何の対応が必要か」「何をどのようにしていくか」など、今後の戦略としての進め方を記しています。
引き続き、在宅医療・介護連携を推進するため、地域医療連携推進協議会では、地域の医療の特徴や課題をつかみ、医療現場の取組を支援していきます。今後も、区民が切れ目のない医療を安心して受けられる仕組みを考えてまいります。また、新たな「高齢者・介護保険事業計画」や「文京区における24時間在宅ケアビジョン」に基づき、様々な施策に着実に取り組んでまいります。引き続き関係機関との協働を推進し、多職種間の顔の見える関係づくりに努めるとともに、看取りまでを見据えた切れ目のない在宅療養体制の構築を目指します。	

●デジタル田園都市構想総合戦略重要業績評価指標(KPI)

指標	単位	R5(2023)	R6(2024)	R7(2025)	R8(2026)	R9(2027)	R10(2027) (目標)
多職種ネットワークシステムのユーザー登録数	件	1,167	1,368	1,665			1,700
	単年度実績	1,167	201	297			